



Japanese Society of
Wound, Ostomy &
Contingence Management

ISSN 1884-233X

第14巻第1号 (通巻第26号) 2010年4月発行

2010
第14巻
1号

日本創傷・オストミー・ 失禁管理学会誌

Journal of Japanese Society of Wound, Ostomy and Contingence Management

第19回学術集会 抄録集

新しい学際的な風を起こす
学会への変革

会期 ● 平成22年 5月8日土・9日日

会場 ● 砂防会館・都市センターホテル

学術集会会長 ● 溝上 祐子 社団法人日本看護協会 看護研修学校

日創傷オストミー
失禁管理会誌

J. Jpn. WOCM

日本創傷・オストミー・失禁管理学会

Japanese Society of Wound, Ostomy and Contingence Management



Japanese Society of
Wound, Ostomy and Continence Management

日本創傷・オストミー・ 失禁管理学会

(旧：日本創傷・オストミー・失禁ケア研究会)

第19回学術集会 抄録集

新しい学際的な風を起こす 学会への変革

会 期 ● 2010年 5月8日(土)・9日(日)

会 場 ● 砂防会館・都市センターホテル

学術集会会長 ● 溝上 祐子 社団法人日本看護協会 看護研修学校

学術集会事務局

社団法人日本看護協会 看護研修学校 皮膚・排泄ケア学科

〒204-0024 東京都清瀬市梅園1-2-3

TEL: 042-492-7459

E-mail: woc@nurse.or.jp

第19回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会 開催のご挨拶

第19回 日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会

会長 溝上 祐子

社団法人日本看護協会 看護研修学校



わが国に認定看護師制度が導入され、1997年に36名の創傷・オストミー・失禁(WOC)看護認定看護師(現:皮膚・排泄ケア認定看護師)が誕生し、12年を迎えた現在は1,129名に達しました。この看護領域の発展は1980年代に海外でETナースの資格を取得した数名の専門ナース達が高度なストーマケア技術を啓発したことから始まりました。

資格を有する看護師の職能団体としての日本ET/WOC協会は多くの同志を得ながら、創傷・オストミー・失禁ケアの発展に寄与してまいりました。しかし、その成果のほとんどは創傷や排泄障害を専門とする研究者や臨床医等とのコラボレーションなしには決して得ることができなかつたでしょう。そして、2009年5月、日本ET/WOC協会は発展的解消をとげ、広く大学人や研究者、医師などの会員を加えて、日本創傷・オストミー・失禁管理学会を設立いたしました。それはごく自然な流れであったと感じております。

日本創傷・オストミー・失禁管理学会では、創傷治療の基本はもちろん、急性創傷(熱傷、外傷など)や慢性創傷(褥瘡、下腿潰瘍、足潰瘍、その他感染創など)およびストーマ、失禁などの排泄障害に関連した最新のケア、管理学を研究、討議することになります。

このたび私はこの節目となる記念すべき学会としての学術集会の会長をお引き受けすることになりました。その任の重さに押しつぶされそうになりながらも感動と緊張で身の引き締まる思いです。

2日間にわたるプログラムは記念講演として医師であり、多くのベストセラーを世の中に出された渡辺淳一先生をお迎えし、鈍感力について語っていただきます。教育講演はスキンケアの指標やインタープロフェッショナルなどの新しいトピックスを企画いたしました。その他小児排泄障害の最前線管理に関するパネルディスカッション、ストーマ周囲皮膚障害スケールのコンセンサスシンポジウム、失禁に関するシンポジウム、第一線で活躍される医師の創傷管理の実践など興味深い内容で構成いたしました。ランチョンセミナーやアフタヌーンセミナーなどは関係団体のご協力を受け、新しい情報が多く盛り込まれております。また、困難症例検討や基礎研究を含めた演題は108題もエントリーいただき、多くの会員の日々の成果が生き生きと伝わってくることでしょう。

この学会を通して、創傷・オストミー・失禁管理の発展、そして看護実践の専門性の明確化に貢献できればと願っております。また、会員の皆様の交流がネットワークづくりに広がり、この領域の更なる進化を遂げようとする学術内容に大きな学びと感動が得られる機会となりますことを期待しています。

第19回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会

テーマ：新しい学際的な風を起こす学会への変革

主催：日本創傷・オストミー・失禁管理学会

理事長：真田 弘美(東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻 老年看護学／創傷看護学分野)

第19回学術集会会長：溝上 祐子(社団法人日本看護協会 看護研修学校)

目的：創傷、ストーマ、失禁などの管理に関する専門領域の教育、研究、実践および医療の連携をはかり、専門知識の向上、普及に貢献し、もって社会に貢献すること

日時：2010年5月8日(土) 12:30 受付開始及び開場
13:30 開会
5月9日(日) 8:00 受付開始及び開場
8:30 プログラム開始
17:50 閉会

会場：砂防会館(シェーンバッハ・サボー)

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5 TEL:03-3261-8386

都市センターホテル

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-1 TEL:03-3265-8211

参加費：日本創傷・オストミー・失禁管理学会 会員 8,000円
非会員 10,000円
学生 5,000円

問い合わせ先：第19回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会 運営事務局

(株)コンベックス 〒106-0041 東京都港区麻布台2-3-22 一乗寺ビル

TEL:03-3589-4422 FAX:03-3589-3974

第19回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会

組織委員会

岩中 督 真田 弘美 須釜 淳子 館 正弘

田中 秀子 谷口 珠実 南 由起子 森口 隆彦

プログラム委員

安藤 嘉子 石澤美保子 市岡 滋 稲田 浩美

紺家千津子 祖父江正代 丹波 光子 寺師 浩人

仲上豪二郎 船橋 公彦 室岡 陽子 渡邊千登世

(五十音順)

日本創傷・オストミー・失禁管理学会 役員・評議員

理事長 真田 弘美

会長 溝上 祐子 (第19回学術集会) 須釜 淳子 (第20回学術集会)

理事 安部 正敏 梶西ミチコ 紺家千津子 佐藤エキ子 真田 弘美
 須釜 淳子 田中 秀子 田村 由美 徳永 恵子 西村かおる
 前田耕太郎 溝上 祐子 南 由起子 森口 隆彦 渡邊千登世

監事 前川 厚子 宮地 良樹

幹事 佐藤 文 仲上豪二郎 中川ひろみ

評議員 青木 和恵 赤井沢淳子 足達 節子 安達 淑子 安部 正敏 阿部 安子
 石澤美保子 市岡 滋 伊藤美智子 稲田 浩美 入江 弘美 岩中 督
 宇野 光子 江本 厚子 遠藤 富美 大浦 紀彦 大川 恵美 大慈弥裕之
 大谷内千恵 岡田 依子 貝谷 敏子 梶西ミチコ 加瀬 昌子 片岡ひとみ
 門野 岳史 上出 良一 神谷 紀子 茅野 昌子 川上 重彦 工藤 礼子
 熊谷 英子 小泉美佐子 小寺 裕子 小松 浩子 紺家千津子 酒井 透江
 佐藤 文 佐藤エキ子 佐藤和佳子 真田 弘美 佐野 幸子 清水けい子
 正寿佐和子 菅井亜由美 須釜 淳子 杉本はるみ 鈴木 康之 清藤友里絵
 積 美保子 祖父江正代 高木 良重 滝本 宏美 武田 利明 竹之内美樹
 館 正弘 立花 隆夫 田中 純子 田中 秀子 田中マキ子 谷口 貴子
 谷口 珠実 田村 由美 丹波 光子 塚田 邦夫 土田 敏恵 津畑亜紀子
 坪井 良治 寺師 浩人 徳永 恵子 中井 秀郎 仲上豪二郎 中川ひろみ
 永野みどり 中村 容子 西尾奈緒美 西出 薫 西村かおる 根本 秀美
 橋本千加子 原田 俊子 判澤 恵 日野岡蘭子 平島 弘美 深井 照美
 藤本由美子 本間 之夫 前川 厚子 前川 和世 前田耕太郎 政田 美喜
 松岡 美木 松原 康美 松本 恵美 溝上 祐子 三富 陽子 南 由起子
 宮地 良樹 室岡 陽子 森口 隆彦 安 京子 安田 智美 柳井 幸恵
 柳迫 昌美 山崎 紀江 山崎雄一郎 山名 哲郎 山本 亜矢 山本由利子
 脇本奈緒子 渡邊千登世 渡邊 洋子

日本創傷・オストミー・失禁管理学会 各種委員会

将来構想検討委員会

(委員長) 真田 弘美

○森口 隆彦、須釜 淳子、溝上 祐子、岩中 督、安部 正敏

編集委員会

(委員長) 須釜 淳子

○石澤美保子、市岡 滋、塚田 邦夫、土田 敏恵、江本 厚子

学術教育委員会

創傷担当

(委員長) 南 由起子

○清藤友里絵、伊藤美智子、菅井亜由美、渡邊 光子

オストミー担当

(委員長) 紺家千津子

○溝上 祐子、上出 良一、真田 弘美、徳永 恵子、仲上豪二郎

失禁担当

(委員長) 西村かおる

○丹波 光子、谷口 珠美、田中 純子

倫理・メンバーシップ委員会

(委員長) 前田耕太郎

○貝谷 敏子、小柳 礼恵、木下 幸子

会則等検討委員会

(委員長) 徳永 恵子

○室岡 陽子

広報委員会

(委員長) 佐藤エキ子

○津畑亜紀子、石田 弘美、松岡 美木

国際交流委員会

(委員長) 田村 由美

○深井 照美、根本 秀美、宮崎 啓子

認定看護師委員会

(委員長) 田中 秀子

○溝上 祐子、○高木 良重、○稲田 浩美、室岡 陽子、高橋 純

社会保険委員会

(委員長) 渡邊千登世

青木 和恵

渉外委員会

(委員長) 梶西ミチコ

伊藤美智子

○副委員長

交通案内



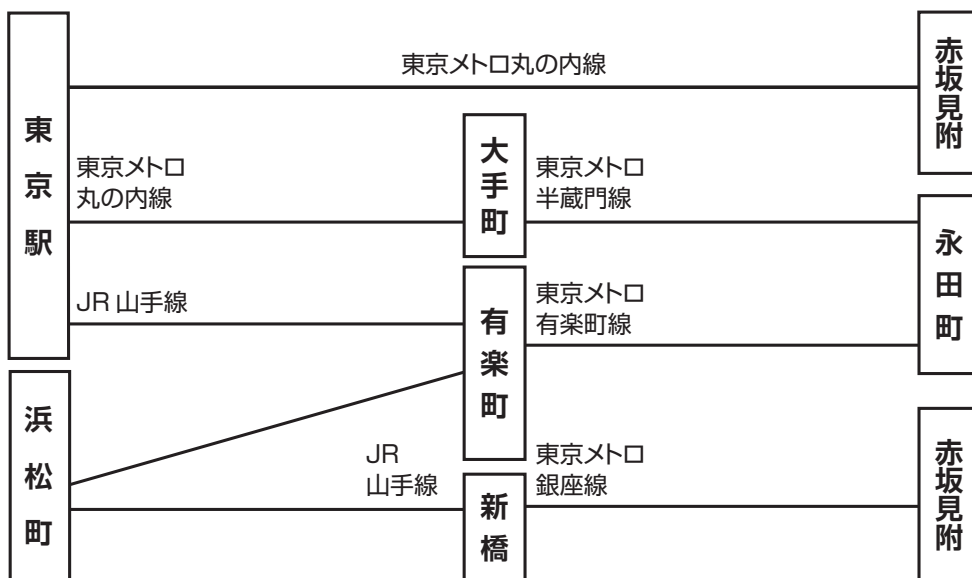
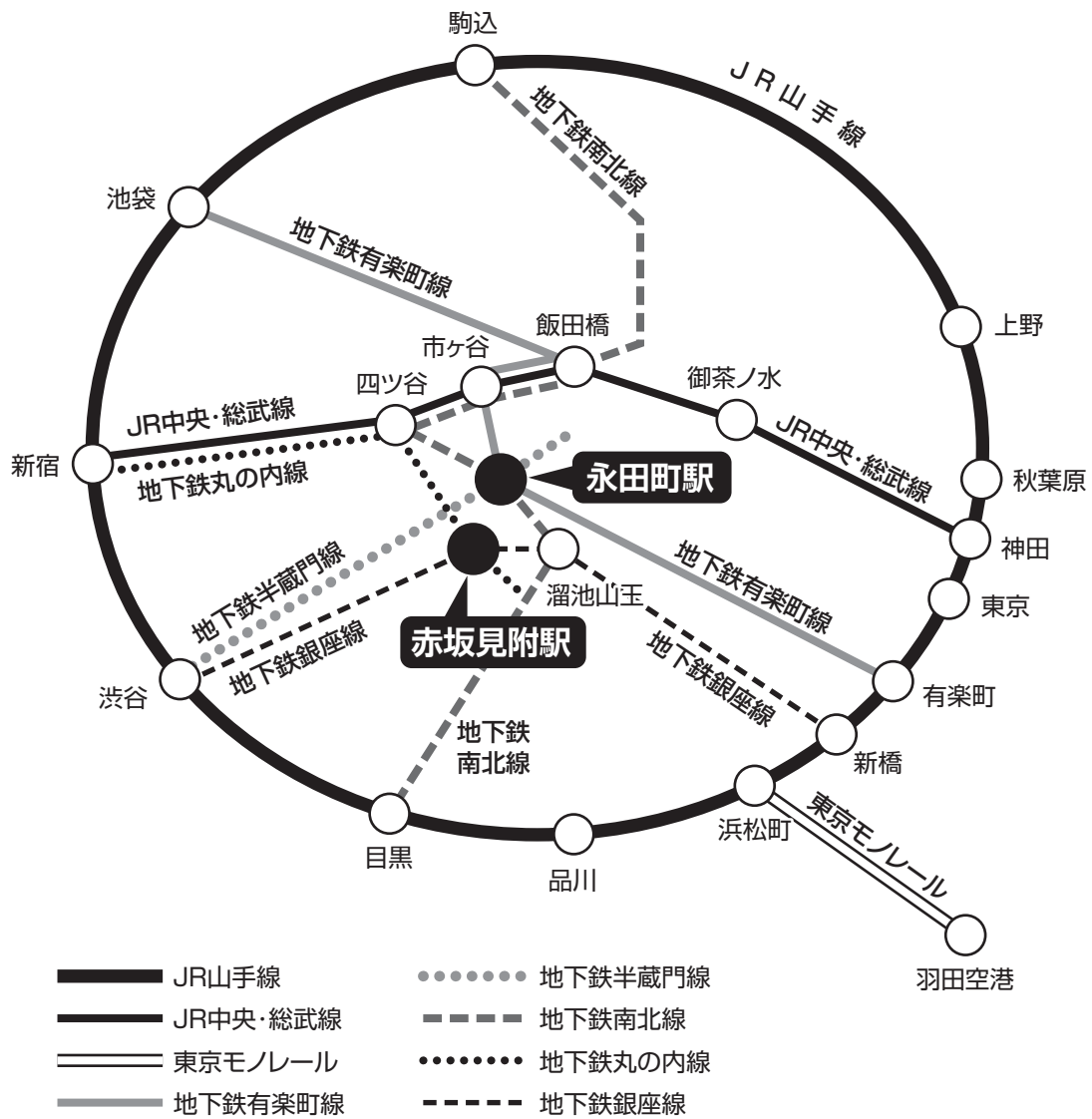
- 地下鉄 有楽町線 「麹町駅」 半蔵門方面1番出口より徒歩約4分
- 地下鉄 半蔵門線・有楽町線 「永田町駅」 4番・5番出口より徒歩約4分
- 地下鉄 南北線 「永田町駅」 9番出口より徒歩約3分
- 地下鉄 丸の内・銀座線 「赤坂見附駅」 D出口より徒歩約8分
- 都バス 平河町2丁目 「都市センター前」下車
(新橋駅～市ヶ谷駅～小滝橋車庫前)

砂防会館(シェンバッハ・サボー)

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5
TEL: 03(3261)8386

都市センターホテル

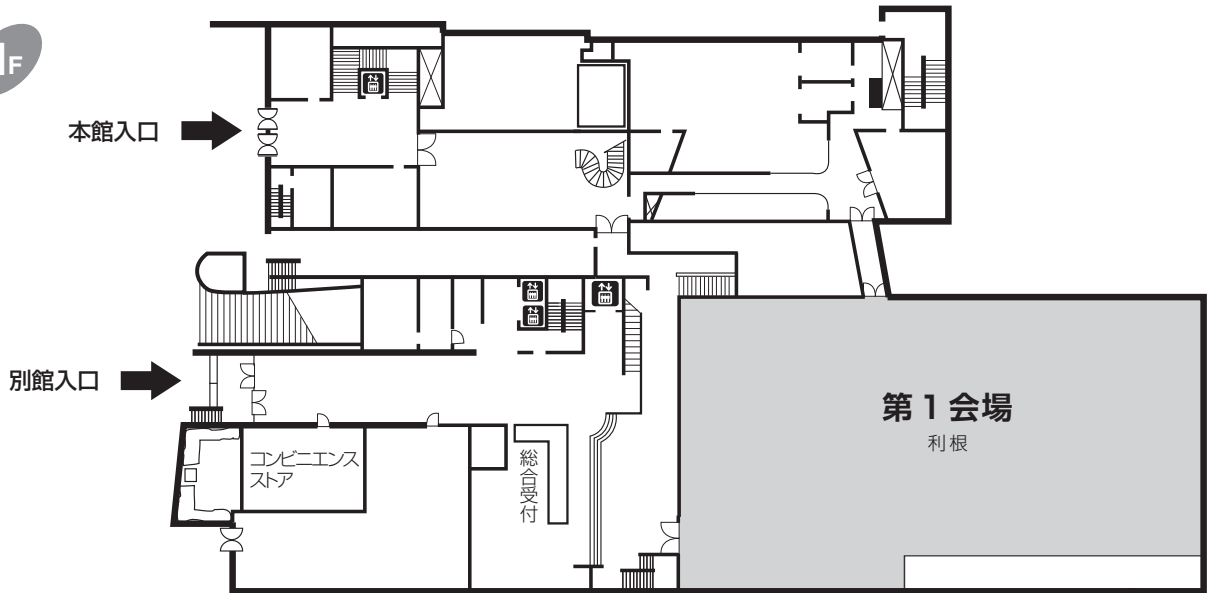
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-1
TEL: 03(3265)8211



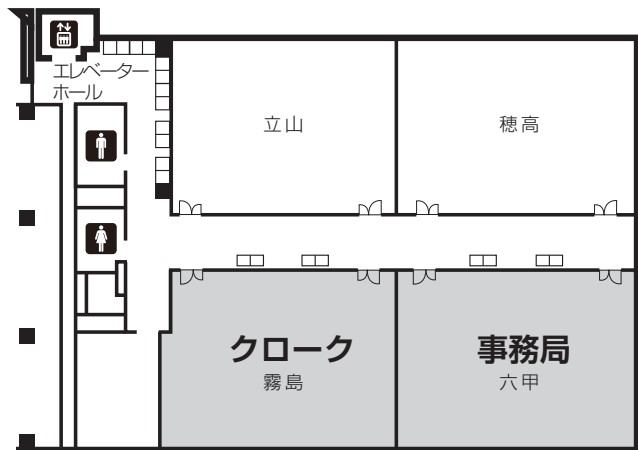
会場案内

砂防会館

1F

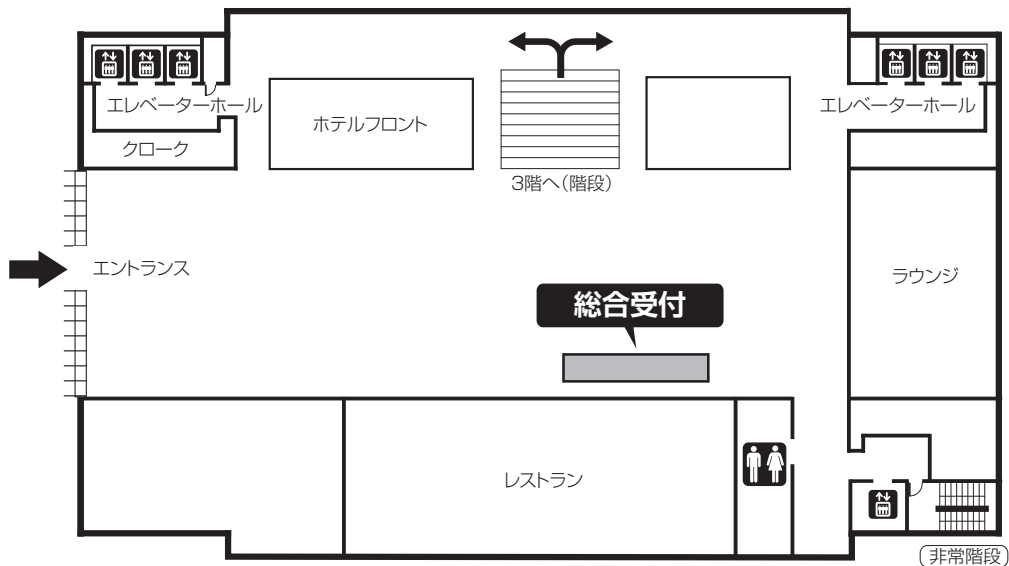


3F



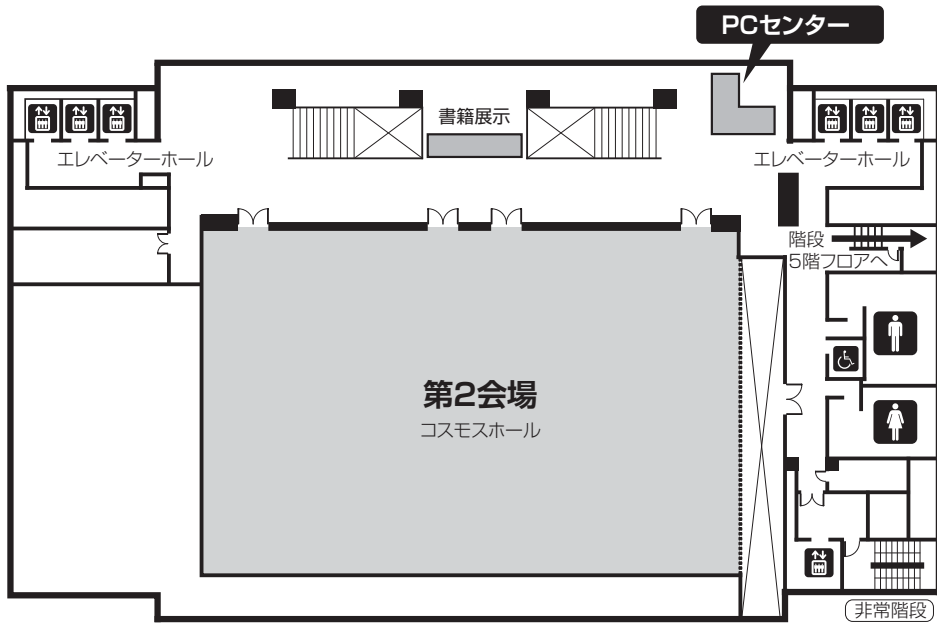
都市センターホテル

1F

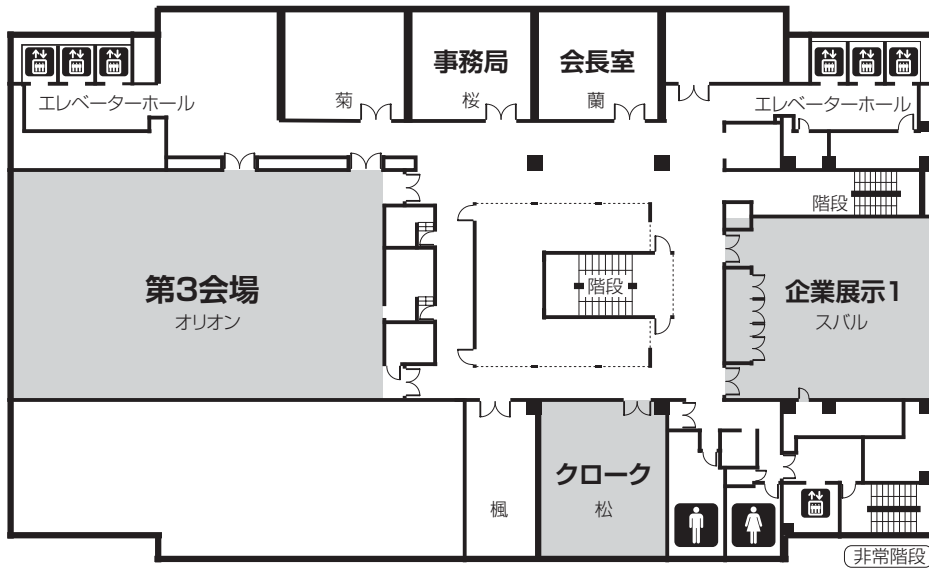


都市センターホテル

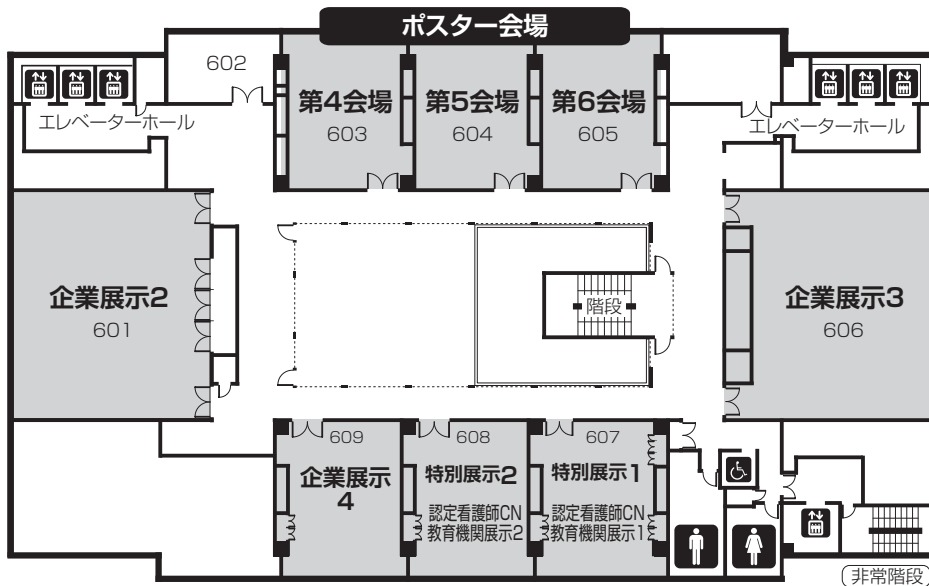
3F



5F



6F



参加者ならびに演者の方々へのご案内

I 参加される方へ

1. 参加受付は以下のスケジュールにて行います。

場 所：砂防会館 別館1F ロビー
都市センターホテル1F ロビー

時 間：5月8日(土) 12:30～18:00
5月9日(日) 8:00～17:30

参加費：日本創傷・オストミー・失禁管理学会 会 員： 8,000円
非会員：10,000円
学 生： 5,000円

※必ずどちらか一方の会場で受付して下さい。参加証(ネームカード)にご記名の上、会場内では必ずお付け下さい。

※事前登録をされている方は当日の受付は不要です。事前送付の抄録集及び参加証をご持参の上、参加証(ネームカード)は会場内で必ずお付け下さい。

※学生の方は学生証を受付にご提示下さい。

2. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会会員の方は当日抄録集をご持参下さい。
抄録集は別途有償(2,000円)にて販売致します。
3. 会場内での飲食はランチョンセミナー、アフタヌーンセミナーを除き、原則禁止とさせていただきます。
また、ドリンクコーナーを企業展示会場(都市センターホテル6F ロビー)に用意致しますのでご利用下さい。
4. 企業展示会・認定看護師(CN)教育機関展示
都市センターホテル5F「スバル」、6F「601」「606～609」にて下記の日時で開催いたします。是非お立ち寄り下さい。
時 間：5月9日(日) 9:00～18:00
5. クローク
場 所：砂防会館：別館3F「霧島」
都市センターホテル：5F「松」
時 間：5月8日(土) 12:30～19:00
5月9日(日) 8:00～18:30
6. 会場内では携帯電話・PHSをマナーモードにするようお願い致します。また、講演及び発表(口演・ポスター)の録音や撮影機器のご使用はご遠慮下さい。
7. 駐車場：学会専用の駐車場はございません。公共交通機関をご利用下さい。
8. 原則として会場内の呼び出しはいたしません。各総合受付横に設置予定の「参加者連絡版」をご利用下さい。

II 発表される方へ

【口演発表】

1. 発表形式

- PCを使用したプレゼンテーションに限ります。
発表者ご自身で演台に設置されているマウス、キーボードを操作して下さい。

2. 発表・討論時間について

- 一般演題の発表時間は5分、討議3分です。
- 発表時間終了1分前にお手元のランプが黄色に、発表時間終了時に赤色に変わることにより時間をお知らせ致します。時間厳守でお願い致します。

3. PC 受付

発表の30分前までに、PC受付にPC本体、CD-ROMまたはUSBフラッシュメモリをお持ちになり、受付と動作確認を行って下さい。動作確認後、PC・メディアは返却致します。PC本体は、口演10分前までに発表会場内のオペレーター席までお持ち下さい。

PC受付 都市センターホテル(第2、3会場)：3F ロビー

■ PCをお持込になる場合

- コネクタの形状は、D-sub15ピン(通常のモニター端子)です。外付けのコネクタを必要とする場合は必ずご自身でお持ち下さい。
- ACアダプターは必ずご用意下さい。
- 発表中にスクリーンセーバーや省電力機能で電源が切れないよう設定をして下さい。
- 電源のオプションを「常にオン」もしくは「プレゼンテーション」にして下さい。
- スリープからの復帰時、起動時のパスワードは解除しておいて下さい。
- 音声の利用はできません。
- PCと共に、バックアップ用のデータ(USBメモリ、CD-R)をお持ち下さい。

■ データ持込(USBフラッシュメモリ、CD-ROM)の場合

- お持ち頂けるメディアはUSBフラッシュメモリ、CD-ROMのみです。
- 当日会場に設置される機材のスペックは下記の通りです。
- OS：Windows XP
- プレゼンテーションツール：Microsoft Power Point 2003/2007
上記条件で作成したデータをお持ち下さい。
- 使用フォントは特殊なものではなく、Windows標準搭載のものをご使用下さい。
日本語：MSゴシック、MSPゴシック、MS明朝、MSP明朝など
英語：Century、Century Gothic、Times New Romanなど
- Windows Vista、Windows7及びMacintoshで発表される場合は、必ずご自身のPCをご持参下さい。
- 動画を使用する場合にも、ご自身のPCをご持参下さい。
- 保存時のデータファイル名は「発表番号・演者名.ppt」として下さい。
- PC受付にてコピーしたデータは発表終了後、主催者側が責任をもって消去致します。
お預かりしたPCは、発表終了後に発表会場のオペレーター席にてご返却致します。

【ポスター発表】

1. 受付・掲示について

特に受付の必要はございません。所定の時間までに貼付、発表、撤去を行ってください。

ポスター掲示サイズは縦180cm×横90cm(図参照)です。パネルの規格に従って、演題名、演者名及び所属の表記をご用意下さい。

演題番号(20cm×20cm)は事務局にて準備致します。

2. 発表・討論時間について

発表時間：5月9日(日) 13:00～14:50 / 16:00～18:00

※発表5分、討論3分です。発表時間の10分前までにご自身のポスター付近で待機して下さい。

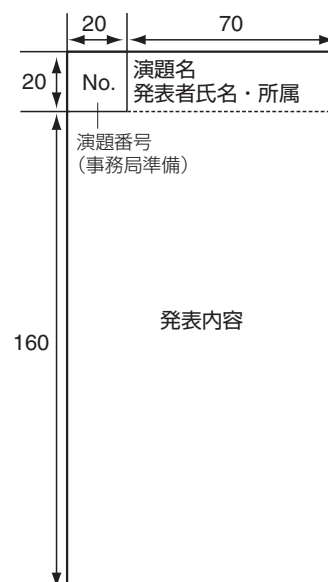
3. 貼付・撤去

貼付日時：5月9日(日) 8:00～09:00

撤去日時：5月9日(日) 18:00～18:30

※貼付の為の画鋏は会場に用意致します。粘着テープ等の使用はご遠慮下さい。

※18:30までに撤去していただけない場合は、事務局にて処分させていただきますのでご了承下さい。



Ⅲ 司会・座長の方へ

1. 口演司会、座長の方はセッション開始予定時刻の10分前までに受付をお済ませの上、次座長席にお着き下さい。
2. ポスター座長は、セッション開始20分前に会場前の座長受付にお立ち寄りの上、開始10分前には担当ポスターパネル前にてお待ち下さい。
3. 時間厳守にて進行をお願い致します。

Ⅳ 討議・質問・発言

司会者、座長の指示に従い、所属、氏名を述べてから発言して下さい。スライドの使用は認めません。

Ⅴ イブニングセミナー・ランチョンセミナー・アフタヌーンセミナー整理券配布について

1. 事前登録された方は発行された整理券に記載のセミナーにご参加下さい。
2. 整理券をお持ちでもセミナー開始までにご参加いただけない場合には、参加辞退されたものとみなしますのでご了承下さい。
3. 当日座席に余裕があった場合のみ、各セミナー開始30分前より各会場前にて整理券を配布致します。整理券はなくなり次第終了となりますので、ご了承下さい。

Ⅵ 日本創傷・オストミー・失禁管理学会への新規入会

学術集会当日に非会員で入会を希望する方は、都市センターホテル1F 総合受付にて手続きを行って下さい。

<日本創傷・オストミー・失禁管理学会事務局>

〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル10階

(株)春恒社 学会事務部内

TEL: 03-5291-6231 FAX: 03-5291-2176

e-mail: etwoc@shunkosha.com URL: <http://www.etwoc.org/index.html>

日 程 表

5月8日(土) 第1日目

砂防会館 第1会場	都市センターホテル		
第1会場	第2会場	第3会場	第6会場
1F 利根	3F コスモス	5F オリオン	6F 605
			理事会
		評議員会	
受付開始			
開会挨拶			
会長講演 小児排泄障害の経験が その人生に及ぼす影響 溝上 祐子			
パネルディスカッション 小児排泄障害の最前線 ー現在そして未来 司会：岩中 督	中 継		
特別講演 鈍感力 渡辺 淳一			
イブニングセミナー 褥瘡を作らないために ……アセスメント MNA 雨海 照祥 共催：ネスレニュートリション(株)			

砂防会館 第1会場
1F 利根
8:00 受付開始
9:00 コンセンサスシンポジウム ストーマ周囲皮膚障害スケール DETスコア 司会：真田 弘美 前田耕太郎
10:00 教育講演 1 新しいスキンケア指標の模索 須釜 淳子
11:00
11:30 総 会
12:00
12:30 ランチョンセミナー 1 めざせ! 認定看護師のキャリアアップ ー期待される専門性 洪 愛子 共催：(株)モルテン
13:00
13:30 シンポジウム 1 コンチネンケアの実像と問題 司会：本間 之夫 西村かおる
14:00
14:30
15:00 アフタヌーンセミナー 1 新たなウンドマネジメントをめざして ～クリティカルケア領域への挑戦～ 寺師 浩人、尾野 敏明、志村 知子 共催：スミス・アンド・ネフュー ウンド マネジメント(株)
15:30
16:00
16:30 シンポジウム 2 創傷管理最前線 司会：館 正弘 南 由起子
17:00
17:30
18:00 閉会挨拶
18:30

5月9日 第2日目

都市センターホテル								
第2会場	第3会場	第4会場	第5会場	第6会場	展示会場			
3F コスモス	5F オリオン	6F 603	6F 604	6F 605	5F・6F			
		ポスター貼付			企業展示	8:00		
						8:30		
						9:00		
						9:30		
教育講演2 創傷・オストミー・失禁ケアとインタープロフェッショナルワーク 田村 由美						10:00		
						10:30		
						11:00		
						11:30		
						12:00		
ランチョンセミナー2 DET ツールにみる「組織過形成」とは 河合 修三 共催：コロプラス(株)		ランチョンセミナー3 脆弱皮膚の理解と実践的アプローチ 菊地 克子 山本由利子 共催：アルケア(株)				12:30		
口演1 WOC困難症例 座長：渡邊千登世 船橋 公彦		口演5 褥瘡マネジメント 座長：市岡 滋 丹波 光子		ポスター1 ターミナルケア 座長：青木 和恵		ポスター4 症例検討 座長：片岡ひとみ	ポスター7 化学療法 その他 座長：中川ひろみ	13:00
口演2 基礎研究 座長：館 正弘 仲上豪二郎		口演6 創傷管理Ⅱ 座長：川上 重彦 紺家千津子		ポスター2 ストーマ困難症例 座長：伊藤美智子		ポスター5 現状調査 座長：松原 康美	ポスター8 ストーマケアとケア評価 座長：菅井亜由美	13:30
						14:00		
アフタヌーンセミナー2 よくわかる!創傷被覆材による ウンド・マネジメントの極意 小浦場祥夫 共催：コンパテックジャパン(株)		アフタヌーンセミナー3 褥瘡ケアを新しい視点から考える 仲上豪二郎 祖父江正代 共催：(株)ケーブ						14:30
口演3 失禁・スキンケア 座長：谷口 珠実 祖父江正代		口演7 オストミーケア 座長：石澤美保子 佐藤 文		ポスター3 創傷管理Ⅲ 座長：室岡 陽子		ポスター6 システム 座長：清藤友里絵	ポスター9 退院支援 座長：松岡 美木	15:00
口演4 創傷管理Ⅰ 座長：武田 利明 田中マキ子		口演8 チーム連携等 座長：稲田 浩美 安部 正敏						15:30
						16:00		
						16:30		
					17:00			
					17:30			
					18:00			
		ポスター撤去			18:30			

第19回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会 主要講演一覧

会長講演 5月8日(土) 13:35～14:20

第1会場(砂防会館1F 利根)

小児排泄障害の経験がその人生に及ぼす影響

司会：真田 弘美 東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 老年看護学／創傷看護学分野

演者：溝上 祐子 社団法人日本看護協会 看護研修学校

特別講演 5月8日(土) 16:30～17:30

第1会場(砂防会館1F 利根)

鈍感力

司会：溝上 祐子 社団法人日本看護協会 看護研修学校

演者：渡辺 淳一 作家

教育講演1 5月9日(日) 10:00～10:50

第1会場(砂防会館1F 利根)

新しいスキンケア指標の模索

司会：森口 隆彦 川崎医療福祉大学 医療技術学部

演者：須釜 淳子 金沢大学医薬保健研究域保健学系 臨床実践看護学講座

教育講演2 5月9日(日) 10:00～10:50

第2会場(都市センターホテル3F コスモス)

創傷・オストミー・失禁ケアとインタープロフェSSIONALワーク

司会：佐藤エキ子 聖路加国際病院

演者：田村 由美 神戸大学大学院保健学研究科

ストーマ周囲皮膚障害スケール DET スコア

司会：真田 弘美 東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 老年看護学／創傷看護学分野
前田耕太郎 藤田保健衛生大学医学部消化器外科

学術教育委員(オストミー担当)

紺家千津子 金沢医科大学看護学部
溝上 祐子 日本看護協会 看護研修学校
上出 良一 東京慈恵会医科大学 皮膚科
徳永 恵子 宮城大学大学院看護学研究科
真田 弘美 東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 老年看護学／創傷看護学分野
仲上豪二郎 東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 老年看護学／創傷看護学分野

DET スコアの妥当性の検証 ワーキンググループメンバー代表

伊藤美智子 社会保険中央総合病院

特別発言：前川 厚子 名古屋大学医学部保健学科看護学専攻

コンチネンスケアの実像と問題

司会：本間 之夫 東京大学医学部附属病院泌尿器科
西村かおる 日本コンチネンス協会

S1-1 はじめに

本間 之夫 東京大学医学部附属病院 泌尿器科

S1-2 コンチネンスケアの実像と問題・病院でのコンチネンスケア

田中 純子 聖路加国際病院 看護部

S1-3 在宅での排泄ケア

吉川 羊子 小牧市民病院泌尿器科 排尿ケアセンター

S1-4 排泄ケアにおける排便管理

神山 剛一 大腸肛門病センター 高野会 くるめ病院

プログラム

第19回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会 プログラム

5月8日(土)

第1会場(砂防会館1F 利根)

開会挨拶 13:30～13:35 第19回学術集会会長 溝上 祐子 社団法人日本看護協会 看護研修学校

会長講演 13:35～14:20

司会：真田 弘美 東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 老年看護学／創傷看護学分野

小児排泄障害の経験がその人生に及ぼす影響

溝上 祐子 社団法人日本看護協会 看護研修学校

パネルディスカッション 14:30～16:30

司会：岩中 督 東京大学医学部附属病院 小児外科

小児排泄障害の最前線 ― 現在そして未来

PD-1 複雑な排泄障害をかかえる総排泄腔外反症の年長児への総合的アプローチ

西島 栄治 兵庫県立こども病院 外科

PD-2 先天性下部尿路障害に対する尿路再建手術とチーム医療

中井 秀郎 自治医科大学とちぎ子ども医療センター 小児泌尿器科

PD-3 二分脊椎児に対する排泄管理の現状と今後の取り組み

山崎雄一郎 神奈川県立こども医療センター 泌尿器科

PD-4 本邦における小児ストーマ造設例の実態調査からみた小児排泄障害の問題点

広部 誠一 東京都立小児総合医療センター 外科

PD-5 先天性疾患で新生児期にストーマ造設を必要とする児を出産した母親の体験

日野岡蘭子 旭川医科大学病院 看護部

特別講演 16:30～17:30

司会：溝上 祐子 社団法人日本看護協会 看護研修学校

鈍感力

渡辺 淳一 作家

イブニングセミナー 17:30～18:30

座長：田中 秀子 淑徳大学 看護学部 看護学科

褥瘡を作らないために……アセスメントMNA

ES1-1 雨海 照祥 武庫川女子大学 生活環境学部 食物栄養学科

共催：ネスレニュートリション株式会社

5月9日(日)

第1会場(砂防会館1F 利根)

コンセンサスシンポジウム 8:30～10:00

司会：真田 弘美 東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 老年看護学／創傷看護学分野
前田耕太郎 藤田保健衛生大学医学部消化器外科

ストーマ周囲皮膚障害スケール DET スコア

学術教育委員(オストミー担当)

紺家千津子 金沢医科大学看護学部

溝上 祐子 日本看護協会 看護研修学校

上出 良一 東京慈恵会医科大学 皮膚科

徳永 恵子 宮城大学大学院看護学研究科

真田 弘美 東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 老年看護学／創傷看護学分野

仲上豪二郎 東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 老年看護学／創傷看護学分野

DET スコアの妥当性の検証 ワーキンググループメンバー代表

伊藤美智子 社会保険中央総合病院

特別発言：前川 厚子 名古屋大学医学部保健学科看護学専攻

教育講演1 10:00～10:50

司会：森口 隆彦 川崎医療福祉大学 医療技術学部

新しいスキンケア指標の模索

須釜 淳子 金沢大学医薬保健研究域保健学系 臨床実践看護学講座

総会 11:15～11:45

会長講演

小児排泄障害の経験がその人生に 及ぼす影響

司会：真田 弘美 東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻
老年看護学／創傷看護学分野

演者：溝上 祐子 社団法人日本看護協会 看護研修学校

特別講演

鈍感力

司会：溝上 祐子 社団法人日本看護協会 看護研修学校

演者：渡辺 淳一 作家

小児排泄障害の経験がその人生に及ぼす影響

溝上 祐子

社団法人日本看護協会 看護研修学校

溝上 祐子(みぞかみ ゆうこ)

社団法人日本看護協会
看護研修学校 副校長

1982年

東京都立荏原看護学校卒業
東京都清瀬小児病院勤務

1987年

クリーブランドクリニック分校
聖路加国際病院 ET スクール終了

2001年

日本看護協会看護研修学校認定看護師
教育専門課程 WOC 看護学科
専任教員(現皮膚・排泄ケア学科)
東京都立清瀬小児病院 WOC 外来、
武蔵野陽和会病院ストーマ・女性外来兼任

2005年

武蔵野大学院 人間社会・文化研究科
人間社会専攻 修士課程終了(人間学修士)

2008年

日本看護協会 看護研修学校 副校長 兼任

学術活動

日本創傷・オストミー・失禁管理学会 理事
日本褥瘡学会 理事
日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会
評議員
日本ストーマ・排泄管理研究会 幹事

シカゴのメモリアル小児病院の Teri Crawley -Coha(2004)は失禁などの失敗の経験はその子どもや家族に大きな衝撃となり、その子どもの自尊心や発達にも影響を与え、やがては社会的孤立を招くと述べている。

私は小児病院で20年近く、排泄障害を持つ子どもたちのケアに従事してきた。合併症の予防や回避など身体的問題を主としたケア介入の技術が熟練していく中で、限界を感じていたのは精神的・社会的問題の回避であった。また、同様の排泄障害や環境にありながら、対人関係を良好にとれ、社会に羽ばたいていくものがいれば、一方では対人関係をとれずに孤立しているものが存在し、この人生の差はどこから来ているものか、それが解明できれば、多くの子どもたちがその子らしいすばらしい人生がおくれるのではないか。今から7年前に「小児期からの排泄障害による経験が社会的スキルに及ぼす影響について」の研究を行うきっかけはこうした疑問からだった。

研究で明らかになったことは小児期に排泄障害にまつわるつらい経験をしたものが人との関係をとるスキル修得に支障をきたしているということである。排泄障害による「いじめ」は人と異なる排泄行動に周囲の子どもたちが興味を持つことから始まる。その単なる興味はいずれ、排泄物の汚染やにおいのせいで集団の中で忌み嫌われ、やがては嫌悪感を抱かせるという経過をたどっていた。排泄障害をもつ子どもを不憫に思う家族は「くさい」などと表現したことはなく、そっと排泄物の処理をして、大切に育ててきたに違いない。本人は排泄物が漏れることが日常で悪いことと意識してこなかったにも関わらず、理由がわからないままに周囲から「くさい」「きたない」と暴言を浴びるのである。これでは家族以外の人に恐怖を感じるようになるのは当然の結果であったかもしれない。これが対人関係を構築するスキルを身につけることができなかつた最大の要因である。しかし、この経験は長い間、彼女たちから人との関わりを遠ざけるが、その後障害のある自分が人から認められ、自信を回復する機会が訪れば、そこから人生が大きく変化する。

この研究は私にとって、つらい現実を突きつけられ、胸を痛め、それまでの自分の関わり方の浅さを認めざるを得ないきびしい教訓をもたらしてくれた。この研究を終えて、皮膚・排泄ケア領域の専門ナースに求められる責務の大きさを痛感した。彼女たちが声を詰まらせながら、伝えてくれた現実を多くの後輩たちに伝え、排泄障害を持つ子どもたちが社会的スキルを身につけ、すばらしい人生を歩んでくれることを切に祈る。

シンポジウム1

コンチネンスケアの実像と問題

司会：本間 之夫 東京大学医学部附属病院泌尿器科

西村かおる 日本コンチネンス協会

S1-1 はじめに

本間 之夫 東京大学医学部附属病院泌尿器科

S1-2 コンチネンスケアの実像と問題・病院でのコンチネンスケア

田中 純子 聖路加国際病院看護部

S1-3 在宅での排泄ケア

吉川 羊子 小牧市民病院泌尿器科 排尿ケアセンター

S1-4 排泄ケアにおける排便管理

神山 剛一 大腸肛門病センター 高野会 くるめ病院

排泄ケアの実像と問題

本間 之夫（東京大学医学部附属病院泌尿器科）
西村かおる（日本コンチネンス協会）

排泄ケアの重要性・特殊性は3つあります。まずは、排泄ケアは個人の尊厳や人権にかかわりもっとも受けたくないケアのひとつであること、第二に、その実数が膨大で慢性機能障害や終末期を含めるとほとんどの人が必要になるケアであること、第三に、にもかかわらず、医学からも看護学からもあまり研究対象とされていないことです。シンポジウムでは、病院と在宅での排泄ケアの実践について、排便管理の重要性も加えて議論します。このシンポが、皆様の看護の心に火をつけることを祈っています。

はじめに

○本間 之夫

東京大学医学部附属病院泌尿器科

皮膚・排泄ケア(WOC)看護師は認定看護師のひとつであり、創傷・オストミー・失禁の看護分野において熟練した看護技術と知識を有するとされている。しかし、これら3分野の中で失禁管理(コンチネンス)が注目されるようになったのはまだ最近のことではないだろうか。失禁・排泄に関するケア(コンチネンスケア)の重要性は3つある。多くの人がもっとも受けたくないと思っているケアであること、その実数が膨大でほとんどの人が必要になるケアであること、医学からも看護学からも研究対象とされていないことである。更にそれらが逆説的關係にあることも重要である。つまり、多くの人に関連している嫌なことにもかかわらず余り相手にされていない。これを一言で言えば、コンチネンスは医療・看護の「鬼門」ということになる。

尿失禁は一般に高齢者に多いとされる。いくつかの疫学調査を集約すると、65歳以上では約400万人の尿失禁の人がいると推定される。そのうち、200万人はオムツを使い、100万人は全ての排泄がオムツの状態(全尿失禁)である。失禁自体は、それが機能障害の結果であれば、止むを得ない部分もあると言えよう。しかし、問題はそれらの失禁患者が泌尿器科を受診する割合が5%にもならないことである。われわれの先行研究によれば、在宅の要介護高齢者の排尿障害に対して泌尿器科医が介入した場合、約60%の人で何らかの改善を示すことが示されている。つまり、専門的な評価もないままオムツで対応されている場合が多いのではないかと推定されるのである。介護費用という点では、成人用オムツは年間1200億円以上にもなる。介護に要する人件費を含めると、その経済的負担は1兆円くらいという試算もある。適切な評価や管理は適切な排泄は躰の第一歩であり、重要な社会的義務ともされる。義務であるということは、トイレで排泄するのは権利でもありと考えられる(排泄権)。トイレでの排泄ができない(させてもらえない)のは、人権問題ともいえる。このような問題意識に根ざして、泌尿器科医は1989年から老年泌尿器科学会を設立し活動してきた。しかし、いまだ排尿管理に対しては診療報酬も看護報酬もつかないのが現実である。

「専門的評価のないままのオムツ使用」は、誰もが避けたいと考え社会正義にも悖るのに、ほとんど無関心のまま放置されている。解決には、制度的な改善が必要であり、それを動かすのはWOCの皆さんである。

コンチネンスケアの実像と問題・病院でのコンチネンスケア

○田中 純子

聖路加国際病院 看護部

急性期治療を担う病院では、頻尿や尿失禁などの蓄尿障害に対するケアよりも、排尿困難や尿閉などの排出障害に対する治療やケアのニーズが高い傾向がある。蓄尿障害に対するケアが積極的に行われない理由としては、夜間頻尿による睡眠不足やコントロールができない尿意切迫感や切迫性尿失禁などの症状が、患者の生命に直接影響がないこと、ケアに対する経済的裏付けがないこと、入院期間が短期間であるためケアの効果が評価しにくいことなどが考えられる。一方、急性期に挿入した尿道カテーテルの抜去後などに生じた排尿困難や尿閉に対するケアのニーズが高い理由としては、特殊な訓練を行わなくても比較的容易に使用できる残尿測定器の導入により、尿閉などの排出障害を早期に発見し、対処することが可能になったこと、感染予防の見地から、尿道カテーテルの早期抜去が推奨されること、尿道カテーテル留置が、退院や施設入所の妨げになる可能性があること、などが考えられる。また、間歇的導尿に関しては、在宅自己導尿指導管理料の保険点数が高額であること、間歇的導尿の導入により患者のQOL向上が図られ、排尿機能の回復につながるケースもあるという背景から、泌尿器科のみならず、産婦人科や消化器外科、整形外科、神経内科、心臓外科など、診療科を問わず取り組まれるようになってきた。

しかし、どの診療科においても、入院期間の短縮により排泄障害が入院中に解決されることは少なく、多くの場合、その治療やケアは転院先の病院や在宅医療へと引き継がれていく。また、コンチネンスケアでは日常生活や身体能力に応じた個別的な対応によるQOLの向上が課題となるため、短い入院期間中に全ての排泄問題を解決することは困難な場合が多い。気持ちの良い排尿、排便のためには、トイレ環境の整備やオムツなどの道具の選択だけでなく、食事や清潔、更衣、介護者など、日常生活に関わる多くの事柄を調整していく必要がある。そのため、院内における直接的なケアだけでなく、患者や家族が、退院後も継続した治療やケアを受けられるよう、外来や転院先の病院、訪問看護など在宅医療との連携、調整が重要な課題となるだろう。

本シンポジウムにおいては、急性期病院におけるコンチネンスケアの実像と問題について実例を交えて紹介し、今後の課題と皮膚排泄ケア認定看護師の皆様にご期待されるコンチネンスケアにおける役割について提案したい。

INFORMATION

日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌投稿規定

Journal of Japanese Society of Wound, Ostomy, and Continence Management

平成22年2月28日改定

日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌は、本領域に貢献する未発表の投稿論文および学術集会記録、学会告示等を掲載する。

1. 投稿者の資格ならびに条件

- 1) 投稿者は、共著者を含めて日本創傷・オストミー・失禁管理学会の会員であること。ただし、編集委員会が認めた場合は原稿の著者は本学会会員に限定しない。
- 2) 論文は他紙に未発表のもので、かつ著作権を侵害しないものに限る。

2. 論文の採否、修正

- 1) 投稿論文の採否は編集委員会の審査によって決定する。受理した原稿は原則として返却しない。
- 2) 審査は査読制によって行い、査読の結果、編集方針に従って原稿の加筆修正などを依頼することもある。校正にあたり初校は著者が、2校以後は著者校正に基づいて編集委員会が行う。
- 3) 期限内に修正論文が届かない場合は不採用とする。
- 4) 論文の著作権は本研究会に帰属するものとする。
- 5) 依頼原稿はその限りでない。

3. 論文の種類

論文の種類は、総説、原著、短報、報告、症例報告、その他であり、それぞれの内容は以下のとおりである。

- (1) 総説：特定のテーマについて多面的に内外の知見を集め、また文献等をレビューして、当該テーマについて総合的に学問的状況を概説し、考察したもの。
- (2) 原著：独創性に富む論文で、明確かつ新しい知見を認める論文。
- (3) 短報：研究結果の意義が高く、すぐに知らせる価値のあるもの、または萌芽的研究論文
- (4) 症例報告：症例や管理・ケア・治療方法に関する内容で、編集委員会が掲載に値すると評価した論文。
- (5) 報告：アンケート調査等の委員会報告で、編集委員会が掲載に値すると評価した論文。
- (6) その他（解説、学会賞講演抄録など）

4. 論文投稿時に提出が必要な書類

- 1) 投稿時に、本学会の定める様式を学会ホームページからダウンロードし、必ず下記内容の【誓約書ならびに同意書】に署名のうえ、項目8に記載の宛先に郵送すること。
 - (1) 原著の内容が未発表であること（英文誌を含めて他誌への重複投稿をしていないこと）
 - (2) 掲載された原稿の著作権が日本・創傷・オストミー・

失禁管理学会に帰属すること（無断で他誌へ図表を転用しないこと）。

- (3) 著者および共著者の全員が日本創傷・オストミー・失禁管理学会の会員であること。
- (4) 著者ならびに共著者の同意書（要署名）
- (5) 図表などの他誌からの引用に関しては、必ず出版社または著者本人からの引用承諾書を提出すること（自著、他著に関わらず提出する必要がある）。

5. 倫理規定

- 1) 人体を対象とした研究及び調査研究などでは、所属施設の倫理委員会またはこれに準じるものの承認が必要である。
- 2) 遺伝性疾患やヒトゲノム・遺伝子解析を伴う症例報告では「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」（文部科学省、厚生労働省及び経済産業省）（平成13年3月29日）による規定を遵守する。

6. 論文の形式

- 1) 邦文原稿は所定様式として24字×30行でA4サイズ用の紙に周囲2.5cmの余白を残して印字する。欧文原稿はダブルスペースでA4サイズ用の紙に周囲2.5cmの余白を残して印字し、言語綴は行末で切れないようにその言葉の頭で改行する。
- 2) 原稿の表紙には、表題、著者名、所属、キーワード（5個以内）の順に和文、英文で明記する。英文キーワードはすべて小文字とする。表紙を1頁として本文に通し番号を入れる。
- 3) 欧文原稿には、邦語の表題、著者名、所属をつける。
- 4) 著者の所属の表記は、筆頭者単独の場合無記号、共著者の所属が異なる場合は、筆頭者を1)とし、共同著者名の右肩およびその所属名の右肩に2)3)と番号をつける。（複写2部の表紙には表題、キーワードのみ記載し、著者名、所属は記載しない。）
- 5) 原著には欧文（250語以内）および邦文（600字以内）の要旨をつける。
- 6) 邦文原稿は原則として常用漢字、ひらがな、現代かなづかいを用い、外国語固有名詞（人名など）は原語を、一般に日本語化された外国語はカタカナを用いる。欧文原稿は当該言語を母語とする者が読んで、正確、明確に理解できるものでなければならない。
- 7) 度量衡は国際単位など汎用されているものを使用する。
- 8) 論文中に固有の機器、医薬品、創傷被覆材の名称を記載する場合は、本文中の初出時のみ一般名（商品名：企業名 ※正式名称を記載）と記載し、以降は一般名で

記載する。なお、論文タイトル、要旨、キーワードには商品名は使用しない。

- 9) 論文の項目の区分は原則として下記の例に従う。
- 大項目 – 無記号で上を一行開け、行の第2字目に記す。はじめに、対象、方法、結果、考察、まとめ、文献などが相当する。
 - 小項目 – 1.2. として上下を開けずに行の第2字目に記す。続いて1), 2) として行の第2字目に記す。
- 10) 図および表にはそれぞれに通し番号をつけ、1図表ごとにA4判に印刷する。
- 11) 図表のタイトル、説明は日本語、外国語のいずれかに統一する。
- 12) 図表はできる限りデータ入稿 (JPEG, TIFF, EPS形式) とし、データの内容についてはプリントアウトしたものを添付のこと。また挿入場所は本文欄外に記載する。
- 13) 写真を掲載する場合はプライバシーを十分に尊重する。
- 14) 謝辞がある場合は本文の末尾に入れる。
- 15) 文献は引用順に配列し、本文の末尾に一括記載する。本文中の文献引用箇所には著者名や引用文などの右肩に1), 1) 3) 6), 1) – 5) のように記す。参考文献は記載しない。
- 16) 著者が3名以上の場合ははじめの3名までを書き、あとは「他」または「et al.」を付け加える。
- 17) 文献の記載様式は下記の要領に従う。

• 雑誌の場合

著者名, 論文の表題, 略雑誌名 巻: 初頁 – 終頁, 発行西暦年号.

例 1) 山本亜矢, 鈴木愛美, 赤池こずえ. ストーマ器具費用がオストメイトのQOLに及ぼす影響. 日WOCN 会誌 5: 12-16, 2002.

2) Langemo DK, Melland H, Hanson D, et al. The lived experience of having a pressure ulcer: a qualitative analysis. Adv Skin Wound Care 13: 225-235, 2000.

• 単行本、分担執筆の場合

著者名, 題名, 書名, (編集者), 頁, 出版社, 発行地, 発行年.

例 1) 真田弘美. 褥瘡の予防. 褥瘡の予防・治療ガイドライン, (厚生省老人保健福祉局老人保健課監修, 宮地良樹 編), 8-36, 照林社, 東京, 1998.

2) Harding CR. Effect of moisturizing factor and lactic acid isomers on skin function. Dry Skin and Moisturizers: Chemistry and Function, In: Loden M eds, 229-241, CRC Press, New York, 2000.

• 訳本の場合

著者名, 訳者名, 書名, 頁, 出版社, 発行地, 発行年.

例 1) Altman PL, 久保田競, 中村嘉男訳. 生命科学論文のまとめ方のコツ. 62-83, 協同医書出版社, 1986.

• WEB の場合

web site の発信元. (西暦, 月). 記事が載っている大題名: 記事名. 検索日, 年, URL

例 U.S. Department of Health and Human Services. (2000, November). Healthy people 2010: Understanding and improving health. Retrieved September 26, 2001, from <http://www.health.gov/healthypeople/>

18) 利益相反に関する記載例

本研究は〇〇の資金提供を受けた。〇〇の検討にあたっては、〇〇からの測定装置の提供を受けた。

7. 論文の長さ

投稿論文の1編は本文、文献、図表を含めて下記の範囲内とする。

総 説	16,000 字以内
原 著	12,000 字以内
短 報	10,000 字以内
症例報告	4,000 字以内
報 告	8,000 字以内
そ の 他	4,000 字以内

8. 投稿手続

1) オンライン投稿について学会ホームページの会員ページ内のオンライン用投稿規定を参照すること。

2) 郵送による投稿について

(1) 原稿は3部 (うち2部は複写可) を送付する。ただし、複写2部の表紙には表題、キーワードのみ記載し、著者名、所属は記載しない。

(2) 写真・図も3部 (うち2部は複写でもよいが、カラー複写とする。わかりにくいようなら原本3部)

(3) 共同著者の許諾を得た上で送付する。

(4) 原稿は封筒の表に「日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌原稿」と朱書し、下記に二重封筒で宅郵便、その他配達記録の残るもので投稿すること。不明な点は下記事務局まで問い合わせのこと。

〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号
新宿ラムダックスビル10階(株)春恒社内

日本創傷・オストミー・失禁管理学会事務局 宛

付 則

この規定は、平成10年1月20日から施行する。

この規定の改定は、平成12年11月20日から施行する。

この規定の改定は、平成16年4月1日から施行する。

この規定の改定は、平成17年3月1日から施行する。

この規定の改定は、平成18年4月1日から施行する。

この規定の改定は、平成20年2月1日から施行する。

この規定の改定は、平成21年5月10日から施行する。

この規定の改定は、平成22年2月28日から施行する。

日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌投稿申し込み用紙

所 属：

執筆者： ほか 名
 (会員番号)

表 題：

本 文： 頁 表： 枚 図(写真)： 枚

連絡先：

住所：〒

TEI / FAX / メールアドレス ※メールでの連絡が主となります。アドレスをお書き下さい。

別刷り請求先住所(論文記載用)：

〒

下記の点をチェックのうえご投稿お願い致します

- 論文の種類は記載していますか？(原著、総説、短報、報告、症例報告、その他)
- 原稿の大きさはA4判にそろっていますか？(図・表・写真を含む)
- キーワードは5つ以内ですか？
- 原稿のページは記入されていますか？
- 原著論文には、600字以内の和文要旨と250字以内の英文のアブストラクトは記載されていますか？
- 執筆者全員の英文の名前と所属、職名は記載していますか？
- 引用文献：文献の終わりのページを忘れずに。
- 本文中に文献番号を引用順に配列し、記載していますか？
- 本文はオリジナル1組、コピー2組。コピー2部の表紙は表題、キーワードのみで著者名、所属は消していますか？
- 図表(写真)はオリジナル1組・コピー2組ありますか？
- 表紙、和文要旨、英文アブストラクト、本文、文献の順に、図表は別に綴じましたか？
- 誓約書ならびに同意書はありますか？

共著者名				
会員番号				

※入会手続き中の場合は「手続き中」と記載する。

- 原稿が破損しないよう配慮して梱包すること(二重封筒など)。
- 配達記録の残るもので投稿すること(宅配便など)。

論文受付番号(学会事務局が記入)： _____

誓約書ならびに同意書

日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌に投稿する下記の論文について、同学会誌投稿規定に基づき、以下について誓約・同意致します。

1. 投稿論文の内容は、国内外を問わず他誌に未発表であることを誓約致します。
2. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌に掲載された内容のすべての著作権が日本創傷・オストミー・失禁管理学会に帰属することに同意致します。また、他誌の依頼により転載する場合も、日本創傷・オストミー・失禁管理学会の承諾の上、行うものと致します。
3. 著者および共著者全員が、日本創傷・オストミー・失禁管理学会の会員であることを誓約致します。ただし、編集委員会が認めた場合は原稿の著者は本学会会員に限定しません。
4. 上記の内容について、筆頭著者を含む共著者全員の同意を得ています。

西暦 _____ 年 _____ 月 _____ 日

タイトル： _____

	氏名(楷書)	会員番号	署名
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

(不足する場合には本用紙をコピーしてご利用ください)

日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌
第19回学術集会 抄録集

(第14巻 第1号)
平成22年4月5日 発行

編集・発行：第19回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会

問い合わせ先：第19回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会事務局
〒204-0024 東京都清瀬市梅園1-2-3
社団法人日本看護協会 看護研修学校 皮膚・排泄ケア学科内
TEL：042(492)7459

認定看護師（CN）教育機関展示

社団法人日本看護協会 看護研修学校

社団法人兵庫県看護協会 認定看護師教育課程 皮膚・排泄ケアコース

社団法人福岡県看護協会 看護専門教育センター

北海道医療大学 認定看護師研修センター

新潟青陵大学 認定看護師研修センター

京都橘大学 看護教育研修センター

展示会社（五十音順）

アルケア株式会社

株式会社いわさき

花王株式会社

ケーシーアイ株式会社

株式会社ケーブ

コロプラスト株式会社

コンバテック ジャパン株式会社

スミス・アンド・ネフュー ウンド マネジメント株式会社

スリーエム ヘルスケア株式会社

セーレン株式会社

ソルブ株式会社

株式会社タイカ

ニチバン株式会社

日清オイリオグループ株式会社

ネスレニュートリション株式会社

白十字株式会社

パラマウントベッド株式会社

有限会社ピースケア

株式会社ホリスター ダンサック事業部

株式会社ホリスター ホリスター事業部

マルホ株式会社

株式会社ミムロ

村中医療器株式会社

メンリッケヘルスケア株式会社

持田ヘルスケア株式会社

株式会社モルテン

ユニ・チャーム メンリッケ株式会社

広告協賛会社（五十音順）

味の素製薬株式会社

アルケア株式会社

ケアネット・インターナショナル株式会社

コロプラスト株式会社

コンバテック ジャパン株式会社

株式会社照林社

株式会社伸和

スミス・アンド・ネフュー ウンド マネジメント株式会社

大王製紙株式会社

株式会社タイカ

株式会社日本看護協会出版会

ネスレニュートリション株式会社

株式会社ホリスター ダンサック事業部

村中医療器株式会社

株式会社メディカ出版

株式会社モルテン

協 賛

ストーマ用品専門店 ケアライフ

平成22年3月25日現在